

2018 年 11 月 17 日 (土) 15:00-17:00

参加：18 名

司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・初参加者 3 名を含む総勢 18 名で、主に、差別とは何か、なぜ起こるのか、差別が起こる前の平等とはどういう状態か、差別に関する判断は利益・不利益を考えて行われるのかを話し、考えた。

2. 対話：

(0) 問いの提起：

- ・特定属性を狙う差別発言は控えるよう念押しをし「差別はなぜ起こるのか？」という問いを提起した。

(1) 人間以外：動物や AI との関係においても差別は起きるか？

- ・差別を考えると、人間が関わらない、例えば、動物への差別はあるだろうか？
- ・ヘビは執念深いという印象を持っていて、それはヘビへの差別だと思う。
- ・AI が人間を支配する社会となり、AI が日本人絶滅を企んだら、それは日本人への差別だと思う。
- ・ヘビがその差別を感じなければ、差別ではないのではないか。
- ・クモの糸に引っかかったチョウを小学生が観察していた際に先生は「チョウがかわいそう」と言う。これはある種の動物（クモ）に対する差別であろう。

(2) 現象が行か？→思っているだけでも差別か？→起点はどういう状態か？

- ・差別は、意思がある人が意思のある何かに対して扱いに差を付ける悪い行為である。
- 差別はなぜ悪いのか？→悪い行為を差別と呼ぶ（定義した）のであって、理由は言えない。
- ・具体的な行為として発現しなくても、心の中で思うだけでも差別となるのではないか。
- ・例えば、工事現場で作業する際に、狭い区域を担当する人は身長の高い人しかできないから、その人達だけに従事させることは差別だと思う。
- ・ある種の脳障害がある人がいて差別を理解できなかったとしても、その人達を隔離することは差別であろう。だから、差別はされる側が意識しなくても差別である。
- ・返還前の沖縄に A サイン（米国人だけ）がレストランに貼ってあったが、以前沖縄の人はそれを差別とは思わなかったという。された側が意識しなければ、差別ではないのではないか。
- ・夫婦共働きなのに、家事は妻だけがやっていたら、夫（する側）が意識していなくとも差別である。
- ・差別はないはずという前提がスタートであり、頭の中で始まるのではないか。（水が入っている小さなコップとアイスティーが入っている大きなコップのように）違うものを同じと考えたり（同じものを違うと考えたり）するところから差別が始まるように思う。
- ・意図しない差別がある。世の中は右利きの人が多数なので、ハサミ等は右利き用が一般的であるが、左利きの人は不利益を被っているの、ある意味差別と思う。→差別と区別は何が違うのか。
- ・する人、される人、見ている人がいるとき、される人に差別の自覚がなくても、見ている人が差別と感じられたら差別ではないか。

(3) 差別とは何か？→差別 vs 区別→なぜ起こるのか？

- ・何かしら差を付けたら、本人に利益がなくても差別ではないか。
- 差別と区別には差がないと思う。→差別と区別に差はないなら、区別もいけないのか？
- 差別は悪いという前提で話をしているが、なぜ差別は悪いのか？
- ・ジェットコースター乗車前には 140cm のチェックゲージがあり、その人が 140cm 以下なら安全上の理由から乗車は許可されない。これは差別ではないか。140cm 以下でも乗れるように改造して欲しい。
- ・平等がスタートにある。区別することに合理的な説明ができるかできないかで、区別か差別か決まる。
- ・プリントショップを営んでいたときにバイトを雇う際、赤ちゃんの子を持つ母親は雇わなかった。これはいわば当時の同業仲間では常識であったが、これは差別であったと思う。
- ・2 つのものに差があるのに差はないはず（でも扱いに差がある）と思うところから始まるように思う。
- ・一人として同じ人間はいない。全員が違うという前提では社会は成立しない。だから、社会では一人ひとりの守られる権利を決めている。個人の責任にはよらない理由から区別されることが差別である。
- 一人ひとりが抱く守られるべき権利が異なっていて、その認識にずれが生じる。そのずれが原因で、ある人は許される範囲内と考えて行う行為が、別の人にとっては許されない範囲にあり、権利を侵害されたと考え、差別となるのではないか。個々人の想定する範囲の違いが他者権利侵害を起こす。
- ・差別には、個人レベルのものと社会レベルのものの 2 階層があると思う。だから、個人のレベルでは差別と思われるものも社会のレベルでは差別とはならないことがあるし、その逆もある。

(4) 差別の事例→なくす必要→平等の実現→判断の合理性？

- ・昔行きつけのバーのママは良く人を見る眼があり、一見さんを瞬時に判断、ダメと思うと「このお店は会員制」と嘘を言い入店させなかった。常連客にはとても居心地のいい雰囲気を作っていたので、これはこれで良いのではないか。→それは差別である。
- ・仕方ないではダメだと思う。社会全体で差別をなくす必要がある。
- ・平等を考えると、①全部平等＝全員が同じサイズの服を着ることは困難かつ不合理。②全員が服のサイズを選択できることが重要。→もう一つは③全員が身長に合ったサイズの服を選べることである。
- ・全ての人を同じ人間と思うから差別が起こるのではないか。→同じ人間とはどういうことか？→平均の人間ではなく、想定できるフィクションの人間像であろう。
- ・差別が今もあるのなら、それを是正するし、そのためには多少の不利益を被ってもやむをえない。
- ・完全な平等社会はユートピアだが同時に競争→無気力状態となり、何をインセンティブに生きるか？
- ・不利益を被る場合に、どこまでなら耐えられるのか。女性専用車両は、男性にとっては不利益を被るが、今までの女性への不利益（差別）の是正なので、男性はある程度耐えることができるはず。
- ・黒人の奴隷制度があった昔、白人の子が親の財産として黒人奴隷を引き継ぐ前提があったはず。この財産や既得権益を引き継ぐ、さらには守る・変えたくないという欲も原因である。
- 利益・不利益と言うが、そんなに人間の（差別に関する）判断は合理的だろうか。
- ・逆差別とは、これまでの状態が変わることへの反発を表現した言葉ではないか。
- ・原因である感情と当人の発言にはずれがある。ずれがある限り、本当の原因の感情には辿り着けない。
- ・差別は悪いことなので、原因は自分の利益だけを考えたり、当人が愚かだったりではないか。
- ・その人を同じ人間と思っていないからか。自分が弱いからではないか。

3. まとめ：

- ・テーマ提起者としては、差別の原因は個人の権利認識にずれにあるという指摘は発見であり、納得の行くものであった。差別をどう判断しているのかについては時間切れになってしまったので、今後読者の黙考に委ねたい。

以上